

令和5年度第3回釜利谷協議会議事録（3月26日開催）

【出席者】（委員）	小林 正 稔	しらかばこども家庭支援ステーション 副所長
	佐々木 悦 子	桜美林大学 入学部アドバイザー
	小 國 徹	横浜市立金沢動物園 園長
	久 保 眞 紀	釜利谷高校 P T A 会長
	岡 本 裕 子	校長
（事務局）	金 子 博 暢	副校長
	小 曲 昭 男	総括教諭（学校評価部会・キャリア部会）
	穂 積 啓 之	総括教諭（SSE 部会）
	吉 田 眞 穂	総括教諭（学力向上部会）
	飯 田 博 一	総括教諭（SLS 部会）
	近 藤 純 子	総括教諭（地域協働部会）

1 校長あいさつ

- ・創立 40 周年を迎え、今年度はいろいろと振り返る機会も多かった。クリエイティブの指定を受けて 15 年目になるが、今後も今までの伝統を大切にしつつ新しいことも取り入れながら取り組んでいきたいので、忌憚のないご意見をお願いしたい。

2 協議

(1) 令和5年度釜利谷高等学校の学校運営について報告

- ・各運営部会より報告

資料参照

- ・令和5年度学校評価報告・令和6年度学校目標について

資料参照

(2) 各委員より意見・感想

佐々木委員：P26 を見て、欠席遅刻早退が多い。寝つきの悪い生徒や睡眠時間が少ない生徒が多い。保健の授業で、睡眠の大切さや自律神経の整え方を指導し、生徒自身が自分の健康について自発的に取り組んでほしい。

小林委員：ようやく基礎ができてきたのだから、次のステップに入ったほうがよい。その一番の理由は、釜高祭で目標設定させ、きちんと評価させている。これは自己肯定感を高めるために必要。

教員は、「何のために」を教えることが必要。なぜ睡眠が必要か説明しているか。

（例えば、睡眠はうつ病になることを防ぐ等）基礎知識だけでも入れておくことが大切。

高校の先生が生徒の人生を決めたというケースもある。縦の広がりや横の広がりが無いといけない。

学校のルールだから遅刻はいけないのか。社会に出たら、欠席や遅刻をしているようではやっていけない。学校に来る目的をはっきり言う。

生徒に、小学校で勉強を教える経験をさせるとよい。

令和6年度の4年間の目標の教育課程・学習指導の「学力向上に取り組む」は「資質向上に取り組む」に変えてほしい。学力だけが自分を評価するスケールと思ってしまう。

伝統を守るとは、同じことを繰り返すのではなく新しいことを取り入れること。そのようにして次世代につなげていく。

SSEはなぜ必要なのかを考える。生徒と先生方が仲良くするため。蓄積を生かす。「おまえには無理だ。そんなことはできない」というような指導はしない。

小國委員：この3月で退職し、横浜総合パンで勤務することになる。後任はナガラカスミ園長になる。

久保委員：子どもは大学進学という夢ができてから家庭でも勉強するようになった。希望を持てる生徒が増えるとよい。

佐々木委員：中学校で支援をしているが、教員から「釜利谷は暴力があるから生徒に薦めなかった」と言われた。釜利谷の実像をもっと知ってもらおう活動をして、中学校に正しい情報を伝えてほしい。

小林委員：ホームページにQ&A等載せたり、ツイッター（現：エックス）やSNSを使い、発信してもよいのではないか。

閉会